



東京立川 ロータリークラブ

【司会進行】

SAA委員会 渡辺博昭副委員長

【開会点鐘】 中野裕司会長

【ロータリーソング斉唱】

『4つのテスト』

【お客様の紹介】 中野裕司会長

【会長挨拶】 中野裕司会長

【幹事報告】 田中 太幹事

【ニコニコ発表】

親睦委員会 岩田明彦委員

【出席率の発表】

出席委員会 金原宏和委員

6月15日(金)	会 員 数	112名
	出 席 義 務 会 員	106名
	出 席 免 除 会 員	6名
	当 日 出 席 者	94名
	出席免除会員の当日出席者	2名
	出 席 率	87.04%
	6月1日の出席率	84.11% → 98.13%

【卓話講師紹介】

プログラム委員会 中島重夫委員

【卓話】 新内 喜多川派 三世家元

喜多川 保延 様

【閉会点鐘】 中野裕司会長

2017~2018年度 RIテーマ



ロータリー
変化をもたらす

2017~2018年度 国際ロータリー会長 イアン H.S. ライスリー

2017~2018年度 クラブテーマ

Be surprised!! Rotary!

「感動を忘れずに!」

東京立川ロータリークラブ
会長 中野裕司



例会時には必ずバッジをつけましょう

Weekly Report

2018.6.15 第2796回 例会



【会長挨拶】 中野裕司会長

6/15は、オウムとインコの日(オウム06、インコ15)。あらためまして、みなさんこんにちは!!!カウントダウンが始まり、今年度の私の会長挨拶も今回を数えて3回となりました。6月という事で今日はよく皆さんが耳にしますジューン・ブライドについて話しをしたいと思います。なぜ6月の花嫁をジューン・ブライドとして特化しているのかと言うと、欧米では古くから、6月に結婚すると生涯幸せな結婚生活ができるという言い伝えがあります。これはギリシャ神話の主神ゼウスの姫ヘラ、(ローマ名ではユノ、英語名ではJuno)という女神が由来です。ヘラは最高位の女神で、結婚・出産を司り、家庭・女性・子どもの守護神として伝えられており、ヘラが守護している月が6月のため、英語で6月が「June」となりました。6月が「June」となりました。また、ヘラを祭る祭礼が6月のため、6月に式を挙げると女神ヘラの加護を受け、生涯幸せになれるという習慣ができたと言われています。



中野裕司会長

また、6月は全般的にヨーロッパでは気候が良いからということで、長い冬が明け、花が咲き始める時期で、世間一般に開放的で明るいムードが漂い、雨が少なく、復活祭など祭ごとが多いため、相乗効果でより祝福ムードが盛り上がる時期だからとされています。このほか、その昔ヨーロッパでは3月~5月には農作業で多忙なため結婚が禁じられていたため、6月に挙式をするようになったという説もあります。

では何故このようにジメジメした梅雨時の雨の多い時期の6月に、日本では「ジューン・ブライド」として結婚式を挙げる人達が増えたのだろうかと言うと、ただ欧米文化かぶれているのではなく、やはりこの日本の高度成長を担ってきた仕掛け人達がいるのです。1967年、ホテルオークラの副社長が、海外の結婚式事情を調べて「ジューン・ブライド」を発見しました。日本の6月の雨が多く多湿な梅雨時に、ホテル業界やブライダル業界が売り上げ向上を狙って打ち出したのがきっかけです。そして、一昔前は、空調設備も整っていませんでしたが、徐々に技術の発展と共に室内での演出も可能、豊富になってきたので、日本でも「ジューン・ブライド」が流行り始めました。因みに私も1984年5月にホテルオークラで結婚式を挙げました。May・ブライドでちょっと惜しかったです。ただ幹事の結婚式はJune・ブライドでここパレスホテルで行いました。ただ、皆さんもよくご存じでしょうが、流行り好きの日本人のことで、近年の厚生労働省の統計では、6月の挙式はそれほど多くないそうです。エンディングとして、直前尾内さん、本日欠席ですが、是非来年6月には「ジューン・ブライド」を迎えてみて欲しいですね。“まだまだ忘れずに! Be Surprised! Rotary!!”



司会進行
渡辺博昭副委員長



ニコニコ発表
岩田明彦委員



出席率の発表
金原宏和委員

【お客様の紹介】 中野裕司会長

〈卓話講師〉喜多川保延様(新内 喜多川派 三世家元)

岩崎太郎様(東京立川こぶしロータリークラブ)

中野隆右様(東京立川こぶしロータリークラブ)

【幹事報告】 田中 太幹事

●6/12(火)第2750地区、クラブ代表者会議が、京王プラザホテルにて開催されました。各種表彰がありました。当クラブからはインターンシップ功労賞として、松浦商事(株)さんへの表彰がございました。●6/14(金)多摩中G協議会中 新旧会長・幹事引き継ぎ会・慰労会がパレスホテル立川にて開催されました。●6/22(金)第12回理事会、第6回クラブ協議会がパレスホテル立川にて開催されます。●奉仕のかわらばん、ガバナー月信、ハイライトよねやま配布。



【卓話講師紹介】

プログラム委員会 中島重夫委員

喜多川様との出会いは本日お越し頂いています東京立川こぶしRCの岩崎さんと同席している中でお紹介頂き、私よりオファーをさせて頂きました。

本人より詳細のお話があるかと思いますが、7月20(金)夜の部、21日(土)昼の部に無門庵にて公演があるということで、これも何かのご縁として感じています。

お話しを頂く前にニコニコも頂戴をしており、本人も緊張しています。温かい目で聞いて頂き、少し演奏頂ければと思っています。



卓話「亡き弟が繋いでくれた音と命の糸 ～最年少家元が描く新内節の未来～」 新内 喜多川派 三世家元 喜多川保延様

昭島のお稽古場で新内を教えており、ただいま新内 喜多川派 三世家元を務めさせて頂いています。今日は宜しくお願い致します。始めに申し上げますが、普段私は演奏で回っていますので、ただ話すというのは生まれて初めての経験です。今日は温かく見守って頂けると幸いです。また不安なので三味線を置いたままでお話しさせて頂きたいです。



今日は演題「亡き弟が繋いでくれた音と命の糸」の話をしたと思います。私の自己紹介ですが、三味線の特に新内節に特化して演奏しています。この新内節は江戸は吉原でかつて隆盛を極めたジャンルで、男性と女性の恋愛話が多いですが、他にもお祝い事まで様々なものを語っています。何故歌っていないのかというと、私の行っている新内節というのは浄瑠璃と言います。大きく分けると歌ものと浄瑠璃、語るものに分れます。皆さんがよくお耳にしたことがあると思いますが、長唄やお座敷での端唄、小唄は歌ものと呼ばれるジャンルで、私は人形浄瑠璃や常磐津節、清元節、そしてその中の新内節です。浄瑠璃の語りとはどういうものかということ、芝居がかったもので、一つの話の老若男女を一人で語り分けながら進めていきます。先程ジュンブライドのお話がありましたが、日本の芸事は6月6日から始めると大成すると言われています。「6」という数字が重んじられていて、私は3才から日本舞踊を始めましたが、3才の6月6日に日本舞踊を始め、6才の6月6日から三味線を始めました。その後16才で演劇でもデビューをして、ミュージカルなどに出させて頂いています。三味線を中心としたマルチプレイヤーと自

【ニコニコ発表】 親睦委員会 岩田明彦委員

- 東京立川こぶしRC 岩崎太郎様 久しぶりに訪問させて頂きました。徒歩一分の所に例会場があるのはとても便利です。雨でもダッシュでたどり着けました。
- 中野裕司会長 新内 喜多川派 三世家元 喜多川保延様のご来訪を祝して。本日の卓話、宜しく願い致します。
- 田中 太幹事 本日の卓話講師、新内、喜多川派、三世家元、喜多川保延様の卓話、楽しみにしておりました。本日は、よろしく願い致します。
- 小林敬三さん 喜多川保延様の卓話楽しみにしています。来月無門庵での新内イベントよろしくお祈りします。
- 鈴木榮一さん 誕生月のお祝い、ありがとうございました。今月19日に満90才となります。
- 矢澤俊一さん 喜多川様、本日の卓話楽しみにしておりました。しっかり勉強させて頂きます。
- 松浦孝治さん 6月12日に猿渡ガバナーより、インターンシップ功労賞を頂戴しました。ひき続き、派遣高校生の将来の為に役立てるよう、更なるプログラムの充実を図りたいと思います。ありがとうございました。
- 中島重夫さん 本日卓話講師喜多川様どうぞ宜しくお願いします。又、誕生月のお祝いありがとうございます。

本日合計 34,000円 本年度累計 2,920,000円



称していますが、主に繋いでいきたいのはこの三味線です。何故かという、喜多川を継いでいくのにも色々歴史があり、かつて私は日本舞踊家として母の跡を継いでいこうと強く思っていました。母の踊る姿に憧れ、煌びやかさに憧れて、1番最初に人前で踊ったのは2才の時にお弟子さん達を引き連れて行ったお花見の席で、母の扇を借りて三味線に合わせて踊った事が私の踊りの人生の始まりでした。そこからずっと踊りに向かって生きてきましたが、6才の時に三味線もどうしてもやりたいと、祖父の元に入門して三味線と歌の勉強も始めました。私の下に4つ下の弟がいて、手を取り合って2人で歌う、語る、そして祖父が三味線を弾く、家族で毎週末のように舞台へ上がっていました。三味線の演奏で色々な方の前で演奏させて頂きました。その中で自ずと弟は三味線の道へいくのだろうと、祖父がやっていたので男性が継ぐのだろうと私も思っていましたので、踊りは私がやるのだろうと思っていました。そんな矢先、弟が中学2年生で、私が高校生の時に弟が白血病になり、急性リンパ性白血病を最初に発症して、当時家族もかなり驚きの出来事だったのですが、弟がその宣告を受けて、最初に少しだけ泣きました。少しだけ泣きましたが家族に向けて「僕で良かったんだよ」と言ってくれました。それは「ねえねでもなく、お母さんでもなく、家族の誰でもなく僕で良かった」と言ってくれて、私はその言葉が忘れられずにいるのですが、どうして14才でそんな悟った事が言えるのか、何を思っていたのか、今でもそれを知る由もないですが、そこから彼の闘病生活、そしてそれを支える生活が始まりました。もちろんその当ても踊りも三味線も続けていましたが、治療をしていく過程で一度は白血病も良くなりましたが、その後急性リンパ性白血病を治療した影響で二次がんと呼ばれるものになり、急性骨髄性白血病と、別の白血病にかかりました。その時点でかなり危ないと言われていて、最後の手段が骨髄移植でした。骨髄移植はまず兄弟から適合するか調べるのですが、兄弟でも1/4しか確率が合わず、親はまず合うことは少ないで

す。兄弟は両方の親の遺伝子をもらっているので、1/4の確率で合うことですが、残念ながら私は合わず、骨髄バンクへお願いをし、完全に6項目合うことから調べるのですが、その合う方が3、4人見つかりました。ただ、仕事を休まなければいけない、家庭があるなどドナーの方は断る権利があります。その方達には全員断られて、その次に5項目合う方を探そうということで探して、無事骨髄移植は終わりました。その後良くなってきていたのですが、また皮肉な事に骨髄移植をする為に放射線治療が必要になりますが、東電の原発でも問題になりましたが、それ以上の大量の放射線を浴びて白血球を完全に無くして血液を作れなくしてから、ドナーさんの骨髄移植をします。体の血を全部入れ替えるので、血液型も場合によっては変わるので、完全に違う血を入れていく。その放射線を浴びたことによって弟の場合脳に影響が出てしまいました。本当に希にしかないわずかな確率と、予め受けていた説明に弟はピシヤリとはまってしまいました。白質脳症という状態で脳が白質化して萎縮してしまい、動けない、喋れない、首すら動かせない、瞬きも自分の意思では出来ない、その時点で完全な第一級の障害者となりました。さすがに日本舞踊のお稽古も24時間の介護があるので難しいので、母も一度お弟子さん達にも説明をしてお稽古場を閉め、私も仕事を退職し、父は治療費を稼ぎに仕事を増やして、母と私で24時間介護をしてきました。私もこんなに早く介護をするとは思っていませんでしたが、弟が16才、私が20才の時に私自身の使命について考えるようになりました。日本舞踊の為に生きてきて、日本舞踊の為に就職をして、そのために生きてきたが今その踊りを私も母もやっていない。私の本当にやりたい事は何だろうと思った時に、弟とよく話をしていた、お母さん、おじいちゃんがずっとやってきたもの、継げとは言われていないが絶対残したいと弟を話をしていました。私は踊りを残す、弟は三味線を残す、2人で頑張っ、いつか兄弟で国立劇場で公演ができればいいねという夢も話していました。それでもやはり病魔には勝てなくて、弟が20才の時に最後骨髄白血病が顔を出し、骨髄移植の再発というのは治しようがないのです。その時に余命3ヶ月、長くて半年と言われました。そういうことがあって、そこから弟は家族で笑わせて少しでも免疫が上がるように試みました。本人は何も出来ませんが、とにかく家族で一致団結しました。弟もその宣告より1年10ヶ月頑張ってくれました。でもその末に最終的に亡くなってしまいました。その時私は24才で、そこから家族は失意のどん底ではありましたが「僕で良かったんだよ」という言葉が家族をずっと押してくれていて、彼があれだけ頑張ったのだから私達が頑張らなくてどうすると、一番最年少の家族に背中を押され、私は三味線を残せるのは自分しかいない



と急に使命感が沸き、踊りは母が再開し始めていて、若いお弟子さん達が急に成長をし始めて継げるかもしれないという希望が見えてきていたので、私はお弟子さん達に説明をして、私は三味線の道へ行きたいと話をし、母をお願いしますと妹弟子達に頼み、母にも三味線の道へ行かせて下さいと頭を下げました。勿論ものすごく悲しまれましたし、頑張ってきたのにという思いもありましたが、でも私の三味線を継いでいきたいという思いを最後には頑張りなさいと言ってくれました。その準備をしてから祖父の方に三代目を継がせていただきたいとお伺いを立てました、祖父は大喜びで、自分の次を継げるのはいないと思っていたので、頑張れるなら任せると、やってみなさいと言っていただき、私はおしりを叩かれないと頑張れないタイプなので、襲名披露の日程を先に決めて、そこに向かっての準備を始めました。そこから本当に不思議な力に押されるように事がうまくいき始めて、日本舞踊の時はなかなかうまくいかなかったのに、どうして三味線ではこんなにうまくいくのだろうと、弟が守ってくれているのかなと思わずを得ないのですが、その弟が闘病中、いなくなつてからだったりとか、その間に繋いでくれたご縁がすごく大きくて、勿論闘病中に切れてしまったご縁もありました。弟が病気になっていると連絡をしたが一度も来てくれなかったとか、そういう所で自然とご縁とは淘汰されていくものと、新しく繋がっていくものかなと、弟の闘病を通して感じました。闘病中に本当に心から支えてくれた人達は今も親身になって支えて下さっていて、さらに亡くなった後も、闘病の話聞いて応援すると言ってくださる方々、また介護の生活があったので方法を教えにいたり、そういったボランティア活動を行

うようになったので、そこで繋がったご縁が本当に、今心から嬉しく思え、その人達と出会えて良かったと、でも何故出会えたのかと考えたら、弟がいたから、弟が繋いでくれたから今ここがこの人達に囲まれているんだと、実際今日ここに立たせて頂いているのも、弟が三味線を継いでいたら、私がここで皆さんに会う事も出来なかったでしょうし、もっと違う道へ行っていたのかなと思います。私が弟亡き後一年後くらいに襲名披露をしました。その頃にたまたま家族で映画の上映会に行き、そのドキュメンタリー映画の中で大石順教という尼僧の方の言葉で「終わりから始まる終わりなき縁」という言葉に出会いました。その言葉にとても感銘を受けまして、私だけでなく家族もメモをしていて、今もそれが胸にあったまま弟の命の終わり、そこから紡がれていくもの、弟の命はそこで終わったけれども、私に託された命があって、そこに命の糸、家族のもっともっとさきから繋がってきた糸があって、その命の糸と三味線の糸とを私はそれを紡ぎながら命を繋いで、また人の笑顔を作って、また笑顔が人と人とを繋いで、だからこの三味線の糸は私にとって音色を奏でるだけではなく、人と人とを繋いでくれる糸、次世代へと残していく命の糸、音の糸なんだと思います。三味線の糸も切れる事はありますが、また繋いでこれからもこの新内を残していきたいと、そして今この新内節がマイナーになってきてしまっているので、最年少家元であり、最年少演奏家でもあるので、そこは誰にも負けないという熱い思いがあります。CDもこの度6月13日に発売させて頂きました。その中には本手と三味線と浄瑠璃が入っています。本来は別々の人がやるものですが、今回1人でやり、重ねてレコーディングをした渾身の1枚になっています。これから頑張れるきっかけになっていけばいいと思うので、是非お手にとって、新内とはどういうものか、聞いてみて頂けると嬉しいです。また7月21、22日には無門庵さんの方で演奏させて頂きます。「ひとりがたり。」と称しまして初めてのソロライブです。無門庵さんには喜多川保延の後援会も立ち上げて頂いて、私を頑張れとって押し上げてくださったので、押し上げられるだけでなく、ここから自分であがっていかなければと思っています。何卒応援いただければと思います。最後に1曲演奏させて頂いて終わりたいと思います。ありがとうございます。